

大学キャンパスにおける一般利用建物と周辺環境

一般利用建物の配置からみた大学キャンパスの公開性に関する研究 (1)

正会員 ○ 安森亮雄 **
同 松浦達也 *
同 中村周 *

大学キャンパス 一般利用建物 配置
周辺環境 公開性

1. 序 少子化社会を背景に、大学では従来の教育・研究の役割だけではなく大学の個性や地域貢献が求められており、そうした中で大学キャンパスにも地域に開放される都市施設としての役割が期待されている。特に近年は、キャンパス内に博物館や地域連携施設、商業施設といった一般利用が可能な建物(以下、一般利用建物)を整備し、大学キャンパスを周辺環境に対して公開する例もみられる。そこで本研究では、関東の国立大学21大学45キャンパス^{注1)}を対象とし、一般利用建物の配置と周辺環境から大学キャンパスの公開性を明らかにすることを目的とする。本編では、一般利用建物の用途構成や配置、周辺環境を個別に検討し、次編では、これらの組合せによる大学キャンパスの公開性を検討する。

2. 関東の国立大学キャンパスの概要 本研究では、関東の国立大学21大学を対象とし、各大学施設課の協力により、「国立大学法人等施設実態調査」の施設配置図と棟別平面図の提供及び、施設の利用実態のアンケートの回答を受け、それらを基礎資料とした上で実地調査を行った。全21大学のうち15大学は複数のキャンパスを有し、本研究ではこれらの45キャンパスを分析対象とする(表1)。また、大学内に街路等が貫通し、複数の地区にわたるキャンパスもみられる(表2)。これには、主たる地区に小規模な地区が付属するキャンパス(主従型)と、学部別や機能別に同規模の地区が並列するキャンパス(並列型)がみられた。

ンパス(主従型)と、学部別や機能別に同規模の地区が並列するキャンパス(並列型)がみられた。

3. 大学キャンパスにおける一般利用建物

3.1 一般利用建物の用途 近年の大学キャンパスでは様々な一般利用建物がみられる。例えば分析例(図)の宇都宮大学峰キャンパスでは、地域連携施設(UUプラザ)、コンビニエンスストアが入る複合施設、放送大学を含む図書館などの建物を一般利用することができる。こうした一般利用建物の公開度の度合いは多様であるため、その用途を整理し、博物館や商業施設などの「積極的な一般利用を想定している用途」(Aランク)、産学連携施設や同窓会館などの「特定の学外利用者が利用可能な用途」(Bランク)、図書館や生協食堂などの「学内利用が主だが一般利用も可能な用途」(Cランク)という3種類に分類した(表3)^{注2)}。また、こうした一般利用可能な用途が複数組み合わせる建物もあり、これには食堂とホールが併設されるように、学内利用を主とするCランク同士が複合することで建物の公開度を高めていると考えられるものが多かった(表4)。

また、こうした一般利用建物に付随するテラスやピロティ等の公開される外部要素がみられる建物もみられた(表5)。

3.2 公開ユニットの構成 大学キャンパスには、複数の建物や広場が一体となって公開される単位があり、例えば分

大学名	No	キャンパス名	学問系	大学名	No	キャンパス名	学問系
茨城	1-1	水戸	総	8-2	国府台	医	
	1-2	日立	理	9	府中	文	
	1-3	阿見	理	10	府中	理	
筑波	2-1	筑波	総	11-1	府中	理	
	2-2	春日	芸	11-2	小金井	芸	
	2-3	東京文京校舎	理	12-1	上野	芸	
宇都宮	3-1	峰	総	12-2	取手	芸	
	3-2	岡東	理	12-3	横浜	芸	
	4-1	湯浅	文	12-4	千住	芸	
群馬	4-2	昭和	医	13-1	大岡山	理	
	4-3	桐生	理	13-2	宇すかけ台	理	
	4-4	太田	理	14-1	品川	理	
埼玉	5		総	14-2	越中島	理	
	6-1	西千葉	総	15		理	
千葉	6-2	安鼻	医	16		理	
	6-3	松戸	理	17-1	国立	文	
	6-4	柏の葉	理	17-2	小平国際	他	
東京	7-1	本郷	総	18		理	
	7-2-1	駒場(I)	総	19		文	
	7-2-2	駒場(II)	理	20		文	
	7-3	柏	理	21-1	春日	理	
7-4	白金	医	21-2	天久保	理		
東京医科歯科	8-1	湯島・駿河台	医				

表1 関東の国立大学(21大学45キャンパス)

表1注 学問系キャンパスの凡例
総合文理混合(総)、理工系・農学系(理)、医学系(医)、人文系・教育学系(文)、
芸術系・体育系・情報系(芸)、寄宿舎等(他)
「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究:校地・校舎 文部科学省高等教育局大学振興課」の分類による

表2 街路等が貫通するキャンパス

	内部動線あり トンネル、ブリッジ等 (＝, 4)	内部動線なし (14)
主従型	14-1. 東京海洋/品川	8-1. 医科歯科/湯島・駿河台 3-1. 宇都宮/峰 4-2. 群馬/昭和 5. 埼玉 10. 東京学芸
並列型	学門別 (並1, 8) 機能別 (並2, 2)	11-1. 東京農工/府中 18. 横浜国立 4-3. 群馬/桐生 12-1. 東京芸術/上野 17-1. 一橋/国立 1-3. 茨城/阿見 14-2. 東京歯科/越中島
	2-1. 筑波/筑波 7-1. 東京/本郷 13-1. 東京工業/大岡山	16. 電気通信 7-2. 東京/駒場 1-2. 茨城/阿見 14-2. 東京歯科/越中島

表2注 単一建物のみのキャンパスは4資料該当した(単)。()内の数字は該当する資料数を示す(以下同様)。



図 分析例(No. 3-1 宇都宮大学/峰キャンパス)

A Study on Openness of University Campus
in relationship to Layout of Open Buildings to the Public (1)

YASUMORI Akio, MATSUURA Tatsuya
NAKAMURA Shu

析例(図)では、地域連携施設(UUプラザ)と講堂が一体となって広場に面し、キャンパスを公開する拠点となっている。このような一般利用建物が複数集合したり広場と隣り合う単位(以下、公開ユニット)について検討したところ(表6)、一般利用建物は公開ユニットを形成するものが多く、特に建物と広場が複合するユニットが多くみられた。

3.4 一般利用建物及び公開ユニットの配置 前節で検討した一般利用建物及び公開ユニットは、公開度を考慮してキャンパス内に配置されていると考えられることから、これらの配置を検討した(表7)。ここでは、大学キャンパス内の位置関係を、キャンパス境界の正門やその他の門(以下、他門)、キャンパス中央の大学軸などのゾーンにより捉えた。その結果、積極的に一般利用される建物や公開ユニット(Aランク)は正門付近に位置する傾向があった(11/25)。これに対して、図書館などの主に学内利用される一般利用建物(Cランク)は、公開ユニットを形成しキャンパス中央に配置される傾向があった(42/92)。さらに、特定の学外利用者が利用可能な建物(Bランク)は、正門、他門、大学軸以外のキャンパス中央など様々なゾーンに配置される傾向があり、一般利用建物は公開度に応じて配置されていることが分かった。

4. 大学キャンパスの周辺環境 大学キャンパスは、周囲を住宅地に囲まれたり駅に隣接するなどしており、こうした周辺環境との関係に応じた公開性を考えることができる。そこで、大学キャンパス周辺の駅の立地(表8)や周辺環境の用途(表9)について検討し、学校や公園等の大規模な空

地系の用途については、その配置を検討した(表10)。その結果、大学キャンパスの周辺には住宅地や学校の用途が多く、周辺に駅が立地する大学キャンパスが過半数(21/45)を占めた。

また、大学キャンパスの敷地境界は、一般的にフェンスや塀によって囲まれているが、近年では積極的に開放されるものもみられる。そこで大学キャンパスの敷地境界を検討したところ、複数の門が並列するものや(No.9, 東京外国語大学府中キャンパス, 1/45)、境界にフェンスや塀を設けずにキャンパス内の広場と周囲環境が連続するもの(No.7-3, 東京大学柏キャンパス, 4/45)のように、敷地境界を開放するキャンパスがみられた(表11)。

5. 結 本編では、一般利用建物の用途構成、広場等と複合する公開ユニット、及び周辺環境などについて検討した。その結果、一般利用建物は広場等と複合した公開ユニットを形成することが多いことが分かった。また、積極的に一般利用される建物や公開ユニット(Aランク)は正門付近に配置され、主に学内利用される一般利用建物(Cランク)はユニットを形成しキャンパス中央に配置されるなど、一般利用建物は公開度に応じてキャンパス内に配置されていることが分かった。

注1) 附属小中高等学校を除く、45キャンパスを資料とした。
注2) 一般利用建物の公開度は、建物の用途と施設の利用実態のアンケートに基づき、公開度が大学間で一定の基準になるように調整した。

表3 一般利用建物の用途の公開度 (45キャンパス)

公開度のランクと一般利用建物の用途	用途例	キャンパス数
A. 積極的な一般利用を想定している用途 (●)	博物館(博)、美術館(美)、記念館(記) レストラン(レ)、地域連携施設(地)	17
B. 特定の学外利用者が利用可能な用途 (◎)	産学連携施設(産)、同窓会館(同) 放送大学(放)、診療所(診)	22
C. 学内利用が主だが、一般利用も可能な用途 (○)	食堂(食)、売店(売)、図書館(図) ホール(ホ)、交流会館(交)	41

表3注 附属病院は除く。

表4 一般利用建物の用途構成 (211建物)

	Aランク含む (■)	Bランク含む (□)	Cランクのみ (○)
単一用途 建物 (172)	用途 博物館・美術館 (7) 資料館 (5) その他 (13)	大学連携施設 (16) 同窓会館 (3) 放送大学 (2) 診療所 (3) その他 (12)	食堂・売店 (39) 図書館 (34) ホール (13) その他 (25)
複数用途 建物 (39)	博物館+レストラン (1) 資料館+図書館 (1) その他 (4)	放送大学+図書館 (1) その他 (4)	食堂・売店+ホール (8) 図書館+ホール (2) その他 (18)
	(6)	(5)	(28)

表5 外部の公開要素

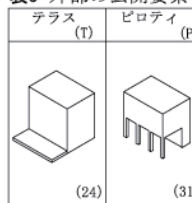


表6 建物単体及び公開ユニットの構成

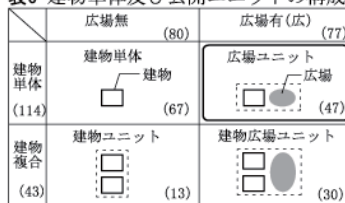


表8 駅の立地

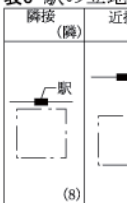


表7 建物単体及び公開ユニットの配置

配置	キャンパス境界 (71)			キャンパス中央 (84)	
	門 (46)	門以外 (◇, 25)	軸 (★, 34)	軸以外 (☆, 50)	
公開ユニット	正門 (▲, 24)	他門 (△, 22)			
積極的な一般利用 (A含む) (■)	建物単体 (10)	(5)	(2)	(1)	(1)
公開ユニット (A含む) (■)	(25)	(15)	(6)	(3)	(3)
特定の学外利用 (B含む) (□)	建物単体 (22)	(1)	(9)	(2)	(3)
公開ユニット (B含む) (□)	(38)	(16)	(9)	(0)	(1)
学内利用が主 (Cのみ) (○)	建物単体 (36)	(2)	(1)	(12)	(6)
公開ユニット (Cのみ) (○)	(92)	(56)	(1)	(7)	(6)
			(21)		(21)

表9 周辺環境の用途

建物系用途					空地系用途		
住宅地 (住)	集合住宅地 (集)	オフィス街 (オ)	商業地 (商)	研究所・工場 (研)	学校 (学)	公園・緑地 (公)	農地 (農)
35	8	3	11	7	28	23	16

表10 大規模な空地系用途の配置

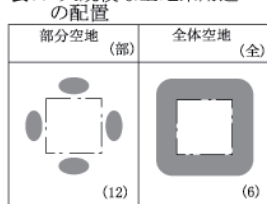


表11 敷地境界

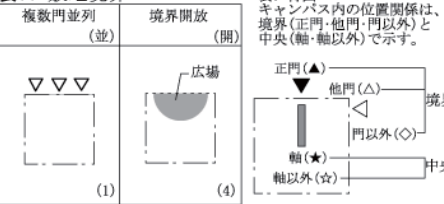


表7 付図
キャンパス内の位置関係は、境界(正門・他門・門以外)と中央(軸・軸以外)で示す。

* 宇都宮大学大学院工学研究科 大学院生
** 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 博士(工学)

* Graduate Student, Graduate School of Engineering, Utsunomiya University
** Assoc. Prof., Dr.Eng., Graduate School of Eng., Utsunomiya University